

第121回 幻住庵俳句コンクー

番号	句	住所・氏名
225	じいちゃんを越して米弄や吊し柿	大津市光が丘町 大槻 幸恵
224	孫と舞ふ念願叶ひ秋扇	大津市光が丘町 大槻 幸恵
223	句心も遊びごころも秋の声	大津市杉浦町 押谷 章子
222	秋草のあふるるばかり造成地	大津市杉浦町 押谷 章子
221	菊人形こころの丈をぶち混めぬ	大津市杉浦町 押谷 章子
220	あかあかと光のはねる夜釣かな	大津市杉浦町 押谷 章子
219	人も天も今は急がず秋の雲	大津市杉浦町 押谷 章子
218	掠鳥の音が夕闇呼んで来る	大津市杉浦町 押谷 章子
217	コスモスや被災の郷にさいてます	大津市柳川一 丸岡 正男
216	髪染めてお茶目なばあば秋めきぬ	大津市柳川一 丸岡 正男
215	剃刀と言われし男松手入	大津市柳川一 丸岡 正男
214	あけび熟れ空の青さ引き寄せぬ	大津市柳川一 丸岡 正男
213	硬球を打つ青春の能登の秋	大津市柳川一 丸岡 正男
212	虚も実も水の地球は秋なりき	大津市柳川一 丸岡 正男
211	露けしや花のかたちの街路灯	大津市別保二 田中 文子
210	女子会の乾杯ワイングラスに月	大津市別保二 田中 文子
209	香ぐわしき紫の君秋の筆	大津市馬場二 葉月 小梅
208	秋雨に潤う紅葉光る君	大津市馬場二 葉月 小梅
207	秋雨や瑠璃に染まりし烏かな	大津市馬場二 葉月 小梅
206	秋空を分けてきらめく蜘蛛の糸	大津市馬場二 葉月 小梅
205	若き日の父母を聞く夜長かな	大津市馬場二 葉月 小梅
204	艶めける葡萄くちびるインク瓶	大津市馬場二 葉月 小梅
203	新緑の石山雨に洗われて	大津市馬場二 葉月 小梅
202	くちなしの白さ目にしむ雨の朝	大津市朝日が丘 澤木 洋子
201	芭蕉像一步踏み出す今日の月	大津市朝日が丘 澤木 洋子

第121回 幻住庵俳句コンクー

番号	句	住所・氏名
250	秋入りて肌掛け寄せる日のやっと	大津市柳川 園井 公子
249	青空の暮れて星空虫しぐれ	大津市柳川 園井 公子
248	朝刊に香り移して木犀花	大津市柳川 園井 公子
247	動かざる守宮の呼吸の速さかな	大津市柳川 園井 公子
246	ロボットの体はブリキ昭和の日	大津市柳川 園井 公子
245	名月をお裾分けする写真かな	大津市松本 松田 翔
244	蟪蛄の鎌をふるわぬ孤独かな	大津市松本 松田 翔
243	湖に夕べ青き光背の満月迎えたり	大津市杉浦町 西田 琴子
242	洪皮煮もてなししみ入りて	大津市杉浦町 西田 琴子
241	魂の揺さぶられるや秋の雨	大津市杉浦町 西田 琴子
240	雲道をあけて月出る湖上かな	草津市桜ヶ丘 西田 満美
239	老二人ボリューム上げ下げ秋の夜	草津市桜ヶ丘 西田 満美
238	秋の風無人駅に切符箱	草津市桜ヶ丘 西田 満美
237	梅雨豪雨難を残して知らん顔	草津市桜ヶ丘 西田 満美
236	真っ青な空にわたがし夏の雲	大津市柳川一 丸岡 佐代
235	コスモスやかくれる児らの帽子ゆ	大津市柳川一 丸岡 佐代
234	買いだめて腹いっぱい冷蔵庫	大津市柳川一 丸岡 佐代
232	秋寒や年嵩忘れ球を追ふ	大津市柳川一 丸岡 佐代
231	秋扇挿頭し新聞にらめっこ	大津市柳川一 丸岡 佐代
230	唯一無二好かれてしまう秋の蚊に	大津市柳川一 丸岡 佐代
229	秋の川葦に被うわれ音も無し	大津市柳川一 丸岡 佐代
228	流れ星あの頃のこと今のこと	大津市光が丘町 大槻 幸恵
227	時雨忌や遠く成りけり幻住庵	大津市光が丘町 大槻 幸恵
226	訪問着秋の暖簾に様変わり	大津市光が丘町 大槻 幸恵
226	知らぬ間に友は遠くへ秋の蝶	大津市光が丘町 大槻 幸恵